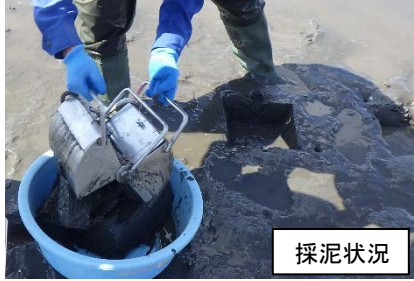
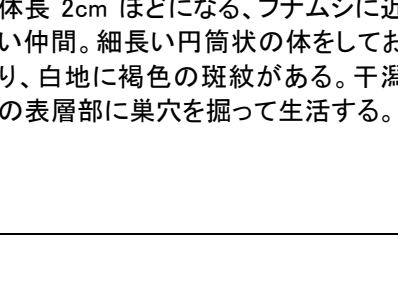
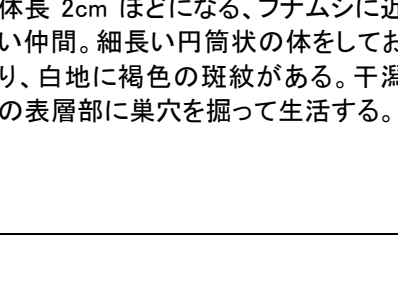
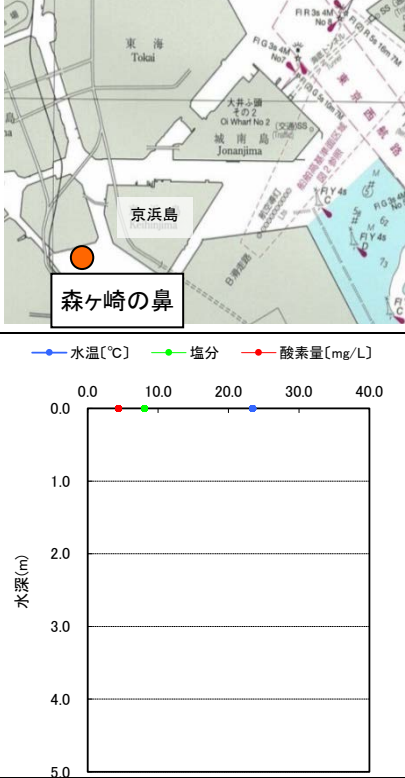


令和6年度 東京都内湾水生生物調査 6 月底生生物調査速報

東京都内湾水生生物調査

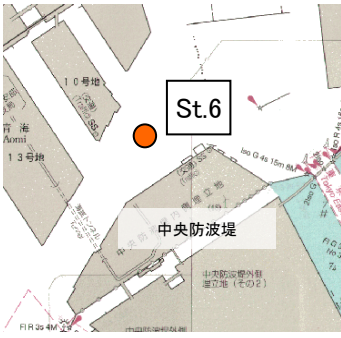
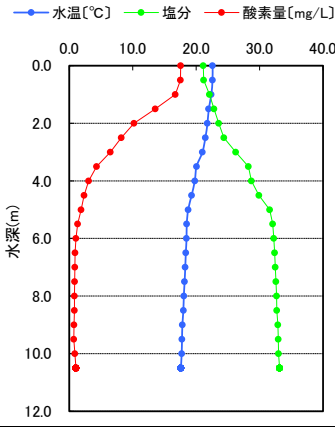
地点名	多摩川河口干潟	調査年月日	令和6年6月4日	8:04~9:15
<調査地点>		<底質状況、底生生物出現状況> ※写真のスケール 1 目盛:1mm		
 多摩川河口干潟 東京国際空港 浮島 水温[°C] 塩分 酸素量[mg/L] 水深(m)		 多摩川左岸側（東京都側）の海老取川河口付近の干潟で調査を行った。		
 底質の状況 底質は砂の混じった固めの泥であった。		 貝殻片や植物片等の夾雑物が交じる。		
 ムロミスナウミナナフシ 体長 2cm ほどになる、フナムシに近い仲間。細長い円筒状の体をしており、白地に褐色の斑紋がある。干潟の表層部に巣穴を掘って生活する。		 採泥状況 干潟に降り、小型の採泥器を用いて底泥を採取する。		
 ヤマトオサガニ 干潟でよく見られるカニ。甲幅 4cm ほどで、柔らかく水分の多い泥干潟に斜めの穴を掘って巣穴を作る。巣穴の入り口には放射状の浅い溝ができる。		 ヤマトシジミ 殻長 4cm ほどになる。汽水域の砂底から泥底に生息するが、河口域にいるものは出水等の影響を受けやすい。		
 紐形動物門 「ヒモムシ」と称される動物群。文字通り紐状で、とてもちぎれやすい。肉食性で、生きた多毛類等を体内に収納している吻（ふん）を伸ばして捕食する。				

東京都内湾水生生物調査

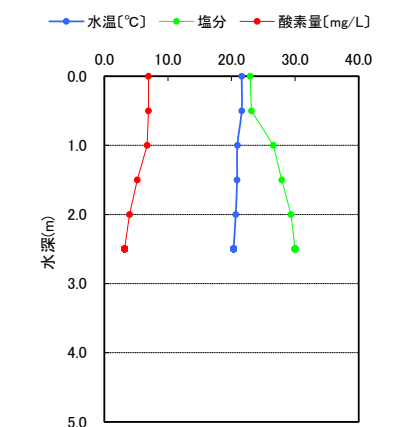
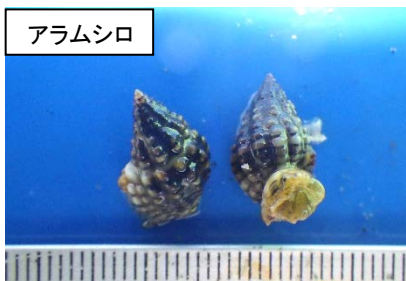
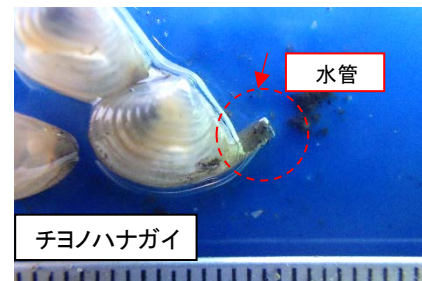
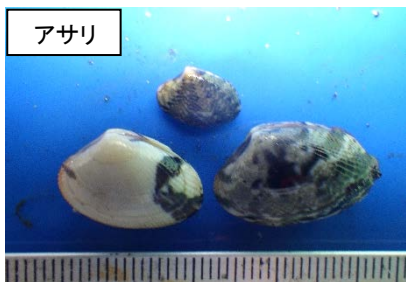
地点名 森ヶ崎の鼻	調査年月日 令和 6 年 6 月 4 日 9:30～10:30
＜調査地点＞	＜底質状況、底生生物出現状況＞ ※写真のスケール 1 目盛:1mm
 水温(℃) 塩分 酸素量(mg/L) 水深(m)	 羽田空港の北側に残された干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。  ふるい上には貝殻片が残った。
底質の状況 	 調査の様子  ムロミスナウミナナフシ
底質は砂の混じった固めの泥であった。	採取した底質をふるいにかける。貝殻片や植物片だけではなく、ビニールゴミが残ることもある。 ※解説は多摩川河口干潟を参照。
チロリ属  吻	ゴカイ科 
体長 10cm ほどになる。4 つの鋭い牙(顎)がついた吻(ふん)を『ちろり』と出して、干潟の小動物を捕らえる。	生活様式も食性も多様な生物。また、ゴカイ科を含め多毛類はたくさんの生物の餌となっている。肉眼での識別が難しいため、ゴカイ科とした。
セジロムラサキエビ 	抱卵中 調査地点付近でセジロムラサキエビを採集した。テッポウエビ科の小さなエビで、他の甲殻類の巣穴に共生する。多摩川河口干潟付近でも確認された。 【調査対象外】

令和6年度 東京都内湾水生生物調査 6 月底生生物調査速報

東京都内湾水生生物調査

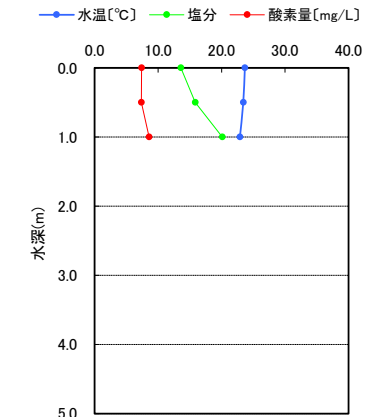
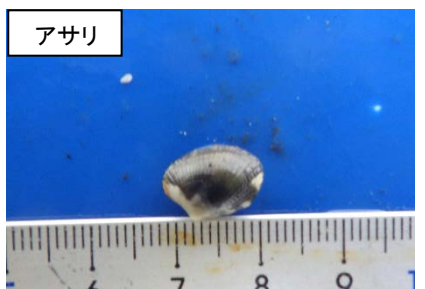
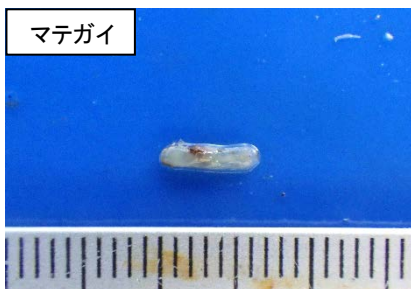
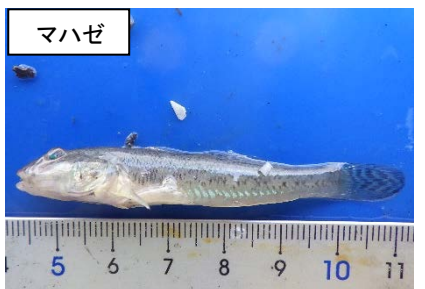
地点名	St.6	調査年月日	令和6年6月4日	10:53~11:47
<調査地点>		<底質状況、底生生物出現状況>		
		※写真のスケール 1 目盛:1mm  東京港フェリーターミナルの正面で船上から採泥を行った。航路であるため、水深は 11.5m と深い。 5.0m 以深は貧酸素状態であった(貧酸素状態: 2.0mg/L 以下)。		
 — 水温[°C] — 塩分 — 酸素量[mg/L] 水深(m)		 ふるい上には貝殻片が残った。		
底質の状況  底質の性状はシルトで、クリーム状でとても柔らかく、若干の硫化水素臭(腐卵臭)があった。		水の臭気の確認  採取した水の臭気を確認する。本地点は赤潮状態であったため、水は中程度の魚の腐敗臭があった。		
チヨリ属  ※解説は森ヶ崎の鼻を参照。		チヨノハナガイ  内湾の泥底に生息する。殻は非常に薄いため、もろく壊れやすい。貧酸素状態でも酸素がある期間に短期的に発生する。		
オウギゴカイ  全長 20cm 以上になる大型のゴカイ類。東京湾の泥底から砂泥底では、貧酸素状態の期間を除き、普通に見られる。		シノブハネエラスピオ  東京湾の内湾部で多く見られる多毛類の一種で、3 対の鰓がある。貧酸素環境に耐性があり、有機汚濁指標種となっている。		

東京都内湾水生生物調査

地点名 三枚洲(荒川河口)	調査年月日 令和 6 年 6 月 4 日 12:16~13:05
＜調査地点＞ 	＜底質状況、底生生物出現状況＞ ※写真のスケール 1 目盛:1mm  荒川と旧江戸川の河口に残された天然の浅場。すぐ横は東京ディズニーリゾートである。水深が 3.1m と深いので、船上から採泥した。   水温(℃) 塩分 酸素量(mg/L) 水深(m)  底質の状況 底質は細砂であった。本地点では令和元年度の台風による出水で植物片の混じったシルトが堆積していたが、現在は台風前の性状へと回復している。  アラムシロ 殻高 15mm ほどになる。殻の表面には粗い粒状突起が並ぶ。干潟から水深 3m の砂泥底に生息する。魚や貝の死骸を食べる性質があり、「海の掃除屋」と呼ばれている。  水管 チヨノハナガイ ※解説は St.6 を参照。 二枚貝は呼吸と食事に水管を用いる。海水を取り入れ(入水管)、排出する(出水管)ことでそれらを行うが、その際、海水はろ過され浄化されている。  アサリ 三枚洲や多摩川河口域周辺は、アサリの生息場所となっており、東京湾における幼生の供給源となっている(粕谷 2005)※。東京湾のアサリははっきりとした模様が多い。  マテガイ 大きなものでは 10cm 以上になる縦長の二枚貝。砂底に縦穴を掘って潜るが、急激な塩分の変化等の刺激を受けると飛び出すことが知られている。生活環境が良くないと移動する。  ギボシイソメ科 砂泥底、転石帯等に生息する。頭部は感触手・副感触手(突起状の感覚器)がなく、擬宝珠(ぎぼし: 伝統建築に見られる装飾)のような形状をしている。

令和6年度 東京都内湾水生生物調査 6 月底生生物調査速報

東京都内湾水生生物調査

地点名	St.31(多摩川河口)	調査年月日	令和 6 年 6 月 4 日	13:43~14:30
<調査地点>		<底質状況、底生生物出現状況> ※写真のスケール 1 目盛:1mm		
		 多摩川河口から1.5km 付近の浅場で調査を行った。水深が 1.5m と深く、船上から採泥した。		
		 ふるいには貝殻片が残った。		
底質の状況  底質はシルト混じりの砂であった。		アラムシロ  ※解説は三枚洲を参照。	アサリ  ※解説は三枚洲を参照。	
マテガイ  ※解説は三枚洲を参照。	ケヤリムシ科  分泌物と泥で作った管を岩等に付着させ、その中に棲むゴカイの仲間。鳃冠(さいかん)を花のように広げ、呼吸をしたり、プランクトンを捕まえて食べたりする。カンザシゴカイ科によく似るが、棲管の材質で区別できる。			マハゼ  河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。本個体も採泥器で採取された。